



♪CONTENTS♪

- 第4回ライブ・アンド・フォレスト
- 南丹・京丹波木材まつり 2014
- 北山杉・里山コンサート
- もくもくフェスタ・藤田木材見学
- 長岡京環境フェア・環境フェスティバル
- 百年サロン報告
- 連載（森林・林業小話 21）
- 編集後記

No.33 (2015.2.25 発行)

第4回ライブ・アンド・フォレスト



今回のライブ・アンド・フォレストは、「癒す、育む、森のちから～girls talk～」をテーマに、森のちからを生かして豊かな暮らしを送るには森林とどう関わっていくのがいいのか、そのヒントを探ろうということで、各地で森や木と人のつながりを生み出してこられた3人の女性の方にご講演いただきました。

最初にお話いただいた小野なぎささんは、山梨で森林セラピストをされています。森林セラピーとは、森林浴がもたらす癒し効果のことをいいます。以前から、森の中を歩いていると何となく気分が良くなるということがよく言われてきましたが、最近になってようやく、森林浴による癒し効果が科学的に証明されました。山梨は東京から近いこともあり、小野さんのもとを訪れる人には都会生活に疲れた人も多いようですが、森の中で五感を研ぎ澄まし、自分と向き合う時間にひたることで、リフレッシュすることができるということです。私は山の中で活動するのが好きで、よく枝打ちや間伐などの山仕事を手伝わせていただいているのですが、山へ行くたびに森林の持つ癒し効果を実感します。このすごさをもっと多くの人に感じてもらいたいなと私自身思っていたのですが、その気持ちがさらに強くなりつつ小野さんのお話を聞かせていただきました。

次に石川麻衣子さんよりお話いただきました。石川さんは、全国各地で取り組まれている「森のようちえん」という活動を京都市内の八瀬というところで行っておられます。一般的な幼稚園児とは違って、森のようちえんの子どもたちが遊ぶのは森の中です。一年を通して、雨の日も雪の日も森へ出かけ、そこで子どもたちは、落ち葉に覆われた斜面を滑ったり、岩の上から飛び降りてみたり、倒木にまたがったりして遊びます。「口はチャック、手は後ろ」が石川さんらこの園の先生のモット



ーで、できる限り助言や手助けはしません。子どもたちは、大自然の中で、自分たちで遊びを考えたり、問題を乗り越えたりしていき、その過程で人への思いやりを身につけて心豊かに成長していきます。講演の中で、子どもたちが森で遊ぶ動画を見せていただいたのですが、本当にみんな生き生きして楽しそうに遊んでいるのがとても印象的でした。

最後は、木づかいビジネス協議会の多田知子さんのお話。多田さんは林業支援講習で林業に出会いました。その講習中に体験した木と関わることで生まれる感動を多くの人に伝えたいという思いから、木づかいビジネス協議会を立ち上げ、木育や木づかいに取り組んでこられました。子どもに木のおもちやで遊んでもらって良さを感じてもらうイベントや、国産材製品の開発・販売などを行っておられ、「国産材の利用を拡大することで森林環境の改善に貢献していきたい」とおっしゃっていました。

講演に引き続いてパネルディスカッションが行われ、森や木が持つ「ちから」について、またそれを生かすための視点や工夫についての議論が深められました。

森や木が持つたくさんの魅力、可能性があらためて感じられるシンポジウムだったと思います。この自然の恵みをもっと多くの人に実感してもらえるように、私もまずは身近な人たちに森や木のよさを伝えていこうと思います。(柏木)



南丹・京丹波木材まつり 2014 へ行ってきました！

このイベントは、環境に優しい木材利用の推進を目的とする「木使い推進月間」(10月1日～31日)にあわせ、南丹地域の林業活性化と地域材の利活用を促すために毎年開かれています。

約1か月の間に南丹市内で地域の森林と木材の活用を知る見学会、木材展示記念市、木質バイオマス利用事例報告会などが行われ、当会では例年美山ふるさとまつりと併設された木材まつりに参加しています。

去年は午後から雨が降り出したこともあって午前中で引き揚げたのですが、今年の11月3日は天候に恵まれたこともあって、丸1日ずっとブースを出すことができました。合板を敷いた上に積み木を並べて遊んでもらったところ、子どもだけではなく、大人も楽しんでくれました。写真のよう

に、中には椅子を使って2メートル50センチ近く(82段)まで積み上げた人もいました。

機会があれば、来年も楽しんでもらえるように工夫していきます。(野瀬)



「北山杉・里山コンサート」を開催しました。

10月18日に、京都市右京区の北山杉林内で、「北山杉・里山コンサート」を開催しました。今年は昨年に続いて2回目の企画で、150人を超える沢山の方にお越しいただきました。

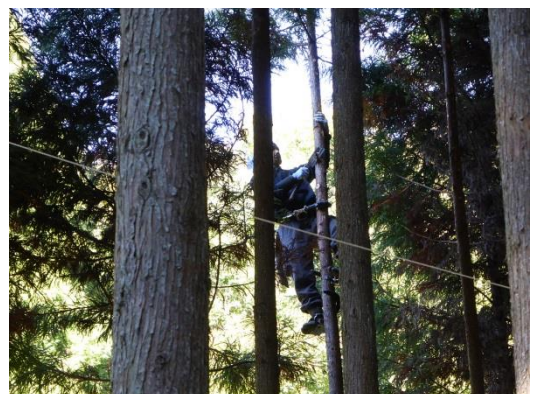
会場に設置されたのは、北山丸太と枝葉で造られた可愛い演奏スペースと、杉立木の根本に北山丸太を横たわらせて拵えた観客用のお洒落な椅子。参加者は丸太に腰を下ろして、舞台の演奏に耳を傾けました。

演奏は、ピアノ、バイオリン、フルートの3人の女性とバリトンの男性1人です。北山杉林内に柔らかく響き渡る綺麗な音色・歌声と、谷地形で聞こえた小川のせせらぎが織りなすハーモニーに思わずうっとりとしてしまいました。

さらに演奏の合間の休み時間には職人さんたちが立木で枝打ち作業を実演して下さいました。高所でも器用に作業し、隣の木に軽々と移られる姿がすごく印象的でした。

会場までの往復には送迎バスも用意されており、乗客の皆さんからは美しい北山杉の風景と伝統的な北山地域の街並みを車内から楽しめたとの

意見も。会場はもちろん、往復の時間も北山杉を堪能できる、「北山杉づくしの空間」の演出がとても素敵でした。爽やかな秋風に吹かれながらの贅沢な時間をぜひ来年も過ごしたいです。(豊濱)



★京都丹州もくもくフェスタに参加しました★



10月11日に綾部市の「京都丹州木材市場」とその周辺で開催された「京都丹州もくもくフェスタ」に出店しました。

「地元の木を使うことは、地元の森を明るく育てることにつながります。もっともっと、京都の森のことを知ってもらいたい！京都の木に触れて、楽しんでもらいたい！」そんな思いで開催されているのが、昨年より規模が大きくなった京都丹州もくもくフェスタです。丹州地域の記念市、京都そまびと選手権での丸太の早切り競争、チェーンソーアートの実演、府内産の木工品や家具を販売するブース、薪ストーブや薪オーブンの展示、野菜や米、地元食材を使ったお弁当の販売などマルシェのようです。百年の会もオリジナルの積み木で子どもたちに遊んでいただきました。会から参加したスタッフは、このフェスタ事務局の伊東禾緒里さんに「来年も盛大に実施したいね。」と声をかけて会場を後にしました。(白石)

※藤田木材へ行ってきました※



10月26日に京都府宇治市にある藤田木材の笠取作業所へ見学に行ってきました。他にはないユニークな木材乾燥設備が特徴的な製材業者です。

工場では丸太から柱や板などの製品に加工し、燃焼ガスで熱を加えて乾燥させています。燃料は背板、オガクズ、プレーナークズなどで、空気の調節によって温度管理すると丸太を蒸し焼きみたいな状態にできます。調整には職人技術が求められますが、仕上げにプレーナーやモルダーを用いると、見事な柱や板ができあがります。すでに京都市内の小学校で導入実績があるらしく、これから徐々に普及していったほしいところです。(野瀬)

◇長岡京環境フェアに参加しました◇



11月15日に、京都府長岡京市の中央公民館と市民ひろばで「第6回長岡京市環境フェア」が開かれ、ブース出展者として参加してきました。

長岡京市は環境都市宣言をしていることもあって、今回のイベントを企画・運営してきた経緯があるらしく、市長や市議会議員が登壇してのグリーンカーテンコンテストの表彰式などが事前にありました。屋外では薪ストーブの展示や昼食の提供がされていました。

子どもたちに積み木で遊んでもらったところ、天井ギリギリまで積み上げたり、文字を作ったりといった個性的な人が来て楽しんでくれました。他の出展者の話も聞くことができましたし、とても有意義なイベントでした。(野瀬)

☆環境フェスティバルに参加しました☆



12月13日と14日に、「京都環境フェスティバル 2014」が京都パルスプラザで開かれ、今年もブース出展で積み木を並べて子どもたちに遊んでもらいました。

昨年に比べるとやや来場者が少ないような気がしましたが、たくさんのお子どもたちが立ち寄ってくれました。中には、椅子に乗ってまで高く積み上げたり、用意した3種類の積み木を組み合わせるなど、独創的な形を表現していました。一定の高さ以上まで積んだら表彰するみたいな仕掛けがあってもいいと感じました。

去年みたいに、スプーンづくりのワークショップをすればもっと来訪者に楽しんでもらえたかもしれず、次回参加するときの課題だと思っています。(野瀬)

「百年サロン」を開催しました

今年は、次のようなスケジュールで百年サロンを企画、開催しました。お茶とお菓子をいただきながら話題提供を受けました。(野瀬)

第1回「建築探訪：木材を見て森を考える」

2014年12月3日(水)

田村宏明さん(もえぎ設計)

第2回「地域の森を活かす木造建築のつくりかた～木材コーディネーターが関わる公共建築木造化の事例～」

2014年12月19日(金)

安田哲也さん(NPO法人サウンドウッズ)

第3回「京北林業と森林組合」

2015年1月14日(水)

宮武寿江さん(林業女子会@京都)

第4回「木を暮らしに生かす」

2015年2月4日(水)

塚本紗恵子さん(鼓童)



❖連載❖ (森林・林業小話 21)

住宅にはどのくらい木材は使われている

以前、木材は住宅よりも紙の原料としてたくさん使われるという話題を提供しました。2013年時点でもその状況に大きな変化はなく、増税前の駆け込み需要の影響があって差が縮まったくらいです。一口に製材といっても住宅だけではなく、土木、梱包、家具などいくつかあります。経年的な統計数値をみると、国産材での製品の比率は少しずつ高まっていて、1990年以降はおおむね80%前後で推移しています。これは、1970年代まで梱

包用と肩を並べるほど多かった家具用の量が大きく減り、ピーク時の50分の1になったことが背景にあげられます。婚礼家具がほぼなくなったこと、ニトリやイケアが人気になったことも大きな要因といえます。とはいっても、住宅に振り向けられる分は木材の総需要量の3割ほどにとどまると思われ、そろそろ世帯数が減り始めることを踏まえると、山林からの木材供給体制を再考する時期にきています。<野瀬>

京都・森と住まい百年の会 会員募集

当会は、分断された京都の森林とまちの暮らしを結んで、互いの関係がよりよいものになることを活動目的としています。お近くの方にもぜひ、NPO法人京都・森と住まい百年の会をご紹介ください。

ご賛同いただける方には入会のお誘いをお願いいたします。当会の詳細、入会については事務局までお問合せください。

ホームページ<<http://www.kyoto100.com/>>

ブログ<<http://kyotos100.blog102.fc2.com/>>

〒604-0931 京都市中京区寺町二条下ル榎木町 98-7

FAX : 050-3309-6365

E-mail: kyoto100nen@gmail.com



京都・森と住まい百年の会

編集後記

久々に編集作業を担当することになった事務局の野瀬です。新鮮な気持ちで作業をさせていただきました。

